

〇〇もんずら

奥島教育長コラム No.24 2025. 3. 1

春は来にけり 春は心を誘うらん



「鈴木」【鹿橋青年会】

羽栄理へ屋島の浦に春は来にけり

春は来にけり

幕 出へ愈々急ぎ行く程に 愈々急ぎ行

く程に 屋島の浦に着きにけり

一、此処は屋島の浦づたや 霞渡り

と漕ぎ行けば

オー 天の表を見て上るは ほのぼの

と浦かぜ迄も長閑なり

オー 春は心を誘うらん 春は心を誘

うらん

オオー これこれ執権の見ねて見習は

ん笑談にては候得ども 今日

は 屋島壇の浦舟戦の合戦の有様を

ソーと御物語申さずして しこう

此方に御入ましまさば 頃は一度

の帆櫓とどい 元略元年閏三月十

八日の事なれば 平家は舟五十隻

余りにて 湖の表に浮かび上つて

戦いしが 中には悪七兵衛景清の

五十騎余りも続いているめおの矢

をも目をかけず

ハア べおがどれんと前を引く 景清

は後を引く

ハア いんやつと相引き身引き力を持

って

ハッ 地息のつぎの間になく・・・

【屋島…大川の詞章 東通村史】



「鞍馬」【岩屋青年会】

この頃ようやくわかってきました。

笛・太鼓と手平鉦が曲の開始を高らかに予告し、ピタッと停止すると「ハイリー 〇〇〇に春は来にけり 春は来にけり」とウタが始まること。次に主人公の登場を歌い上げ、ウタが終わると同時に「キリの拍子」が激しくなる。いよいよ主人公の登場か！ここまでに観客の心がぎゅっとなつかり期待感が最高潮になる！という武士舞の流れです。

信夫・鈴木・十番切・曾我・鞍馬・屋島・巴御前・渡辺。

合戦、母子の別れ、仇討ち、兵法比べ、闘いに殉じて逝く武士……。勇壮に、時には激しく、時には静かに、白扇が舞う。内習いで磨かれた伝統の技が躍動します。中世の歴史をよくわからなくても、主人公が幕内にはいるその時までひきつけられます。敗者・弱者への共感、無常観たどる演目ですが、中世を生きた人々のエネルギーが伝わります。曲の構成の妙が光ります。

「春は来にけり 春は心を誘うらん」 閉ざされた冬期間の生活の中で、人々に新しい春を告げるウタであることは、今も変わりません。

問題：次の能舞の演目は何でしょう。

美しい娘が大木の根元に雨宿りし、大木は娘に恋をしてしまう。やがて大木は切られ、人々は都に曳き出そうとするが、びくとも動かない。動かない大木に娘がふれると……………